

【理事意見】

・村瀬理事を中心に将来構想委員会でアクションプランの議論が進んでいるが、他の2学会から将来展望や構想、どういう学会にしたいかが見えていない。このまま繊維学会の将来構想をそのまま押し付けるとい話にならないか。他の2学会からも将来構想に関する資料を求めてはどうか。それを見た上で、「3学会で共通項が多いので合併しましょう」というのが一番いいストーリーではないか。他2学会がどう考えているのか、現在それは全く見えていないし、聞こえてもこない。

→ 4月8日の合併協議会で検討させていただく。各学会の将来構想の選択肢の一つが合併であるのが、あるべき姿ではないかと思う。

・合併したら効率化できるというロジックが理解できない。今日の説明では、単に繊維機械学会は会員数が少ないのにもかかわらず、ボランティアで多くの会員の方に色々な学会仕事をしていただいているっていう姿が見えただけではないか。会員数が仮に1.5倍になったとしても客観的に数字だけで見ると繊維機械学会のような運営の仕方はしちゃいけないってことが明確で、効率化っていう言い方が、非常にまずいのではないか。今後は繊維学会の現状の人数でオペレーションができる事業に落とし込むことになるかと理解してよいか？

→ 事業規模は必要なものを積み上げたもの。木村理事のおっしゃる通り、なるべくコンパクトにすることを大前提としている。繊維学会規模でやるというよりは、繊維学会自体も見直しが必要な状況。また、学会にはそれぞれの運営方法があって、一緒になった場合には、課題は解決しながらいいところを取り込んでいくことを目指す。ただし、最終的には1学会としてどうあるべきなのかということ議論する必要があるのではないか。

→ 財務プランでは、会費で運営する事業、収支均衡で運営する事業、収益事業に分けて、学会の収益としてどこにいくら費用をかけていくのか検討。例えば、収支均衡の事業については、暫定的に厳しくなってきたら実施できないという判断になるが、一方でその中には年次大会がある。これについては、収支均衡は目指すものの、非常に重要なコア事業であり、仮に赤字になったとしても実施するという判断となる。その一方で、サービス事業については、運営負担が大きすぎれば実施を取りやめる、あるいは縮小する。

→ やはり、一番大きな問題は事務局経費の問題。事務局が一緒になったからといって、直ちに縮小することはできない状況。社労士さんからの助言もあったように、3年から5年かけて、本来あるべき姿へ持っていくということになる。事務局への業務負担についての議論は今やっておかなければいけない。もちろん、収益から事務局経費が出せないとすれば、3学会合併が難しいという会員判断にもなりえると思う。現状、収益部分は限定的であるが、事業規模を縮小したとしても2事務局体制はある程度維持できると考えている。ただし、それが中長期的にどうかというと、そこは大きな課題であることは間違いなく、もう少し踏み込んで議論をしたい。

・繊維機械学会の方たちがしんどいというのはよく聞くので、行事あるいは講演会とかやるために動員をかけているような、負担過多になりかねないビジネスモデルを持ってこられると、皆さんが疲弊するだけではないか。年次大会とかではない収益事業に関しては、

その原資は会費であり、更に先生や会社の方にボランティアでやっていただくことで継続が困難にもなりかねない。だからその分を事務局経費に充当するっていうふうになると元も子もなく、何がしたいのかという話になる。やはり、身の丈にあった事業計画を立てるべき。

→ そこについては次回の協議会で議論させてもらうよう、留意しておく。特に、今はテキスタイルカレッジが社会的な要請に応えるために学会が担う一つのミッションとして実施しているものの、業務負担が大きければここを見直す。あるいは、会員負担が過度でないことが大前提。それが過度であれば見直すということも必要と理解している。

→ 事務局問題は、2拠点とした場合の固定費として150万ほどプラスになる見積り。人件費についても3,000万は少なくないので、事務局員の人数を含め、どういうふうにかまなっていくか協議会での議論が必要。例えば、アカデミア500名規模でコンパクトに運営している学会もあり、その場合は事務局なしというスタンスも選択肢としてはありえる。ただ、繊維学会としては、企業との連携や産学連携が繊維分野としての学会の大きな特徴であるのも事実。ぜひ一つの大きな柱として検討していきたい。

・繊維学会に限らず、特に東北・北海道地区は人が減っている。支部活動を考えたとき、オンラインもハイブリッドもこれだけ使えるようになってくると、支部の意味はどこにあるのかと思うところもある。ただ、合併した後に、他の2学会が東北・北海道地区で全然活動していないのに、今まで通り繊維学会だけが中心に活動するとなるとそれもどうかとの意見もある。支部内からは特段合併に関して反対ではないと認識しているが、合併の可否判断がついてから、支部の今後について議論したい。また、財務関係のことはやはり懸念事項であるので、合併協議で慎重に検討いただきたい。

・東海支部では、以前から繊維系3学会で東海地区講演会などを開催。学生発表や懇親も深め情報交換をしている。その立場からすると、もう少し3学会が集まって横のつながりや情報交換、意見交換とかできる機会を増やした方がいいのではないかと考える。合併については、東海支部内でそんなに反対はないと認識しているが、合併した際の支部運営に関する指針は示してほしい。それがあれば、支部の現場でも取り組みやすい。

・関西支部の会員は京都が中心。一方、他2学会は大阪中心の運営とのこと。もし合併したとすると関西支部としては人数が増えることが本日の資料でわかった。ただ、逆にいうと今まで全く繋がりがなく、支部がどのように運営されていたかも知り得ない。業務負担を減らす話も出ていたが、今までと同じ行事を踏襲することを主張されるとなると、なかなか難しいのではないかと。また、関西地区に事務局を1つ置くとするならば、関西支部の役割もどうなるのか、事務局との関わり方について今は全く考えていない状態。事務局が2つになることで発生する費用や人件費については、以前より不安の声がある通り。例えば、3年から5年間の移行期の人件費は繊維機械学会で全部負担した上で合併します、というような形で繊維学会会員に負担させないなど検討してはどうか。高額な人件費を引き継ぐ印象のままだと、なかなか歩み寄れないのでは。何か施策を持って、繊維学会会員の皆様の理解が得られるような方策なりが練られればいいのでは。

アクションプランについては、辻井会長の進められている繊維学会を魅力的に発信できるのは非常にいいことと思う。その上で、今日も意見があった色々な行事を圧縮し、身の程に合ったものにする意見に賛成。

→人件費については、少なくとも学会が一緒になった時には、どこの固定資産から支出するということはなく、結局一緒になれば同じこと。新しい学会として、その負担をちゃんと引き受けられるかどうかの判断になるかと思う。

・話を聞きながら其々の学会で支部運営も異なるので、西部支部はどうなるのか気になっていた。支部の取り扱いはどこでどう決めるのか、支部からの意見もある程度吸い上げて検討して下さるのか、その方向性が出るという。西部支部内での統合に関する懸念事項として聞くことが多いのはやはり財政面のこと。事務局2拠点のメリットを説明されていたが、通常このサイズの学会の事務局は1拠点であるべきではないか。1拠点ではなくて、2拠点じゃないと絶対できないことがあるとしたらそれを説明されてはどうか。また、事務局を1拠点にしたら駄目な理由があるのであればそれについても説明されてはどうか。もしそうでないのであれば、最終的に1拠点にするという方針を示していただきたい。そうすれば、反対される方は極端に減るのではないかと思う。やはり多くが財政面を気にされていることは間違いなく、人口減少で会員数が減ることと財政面も大きく関連している。また、主たる行事（年次大会と秋季研究発表会）を残して、それ以外については真っさらで議論し、それについて会員へ意見を求めていいと思う。それと、他の2学会を知らない中で統合の話をするのは、2つの全く離れた国が遠隔地にあるにも関わらず一緒に一つの国になるみたいなことを言われているのと同じ。どういう考え方を持っている会かもわからず、ピンとこないところがある。ぜひ2学会から将来構想含め、ある程度示してもらった方がよいように感じる。加えて、もし支部を一旦全部解散するようなことがあるのだとしたら、統合時期をちゃんと考えないと、ある程度走ってしまってからどうするのかという問題が生じるかと思う。早めに意見を纏められるとよいのではないか。

→支部については、現在の全国網羅型の運営体制が維持できればと考えている。県の区分けなどについては、支部役員各位とも相談しながら今後検討したい。

・辻井会長からの説明にあった通り、合併検討にあたり今決めないといけないこと、合併合意後に検討始めること、それから合併して走り出してから決める部分をはっきり分けて話を進めて行くことはとてもいいと思う。そうで無いと、議論が発散してしまっていて、何が何かわからなくなってしまうので、ぜひそういう形で進めていただきたい。ぜひ、会員への説明会を年次大会で行っていただき、より多くの会員から理解を得られるように進めていただくことが大切かと思う。それから、学会誌に関しての心配の声もお聞きしており、学会誌アンケートの結果を踏まえて、今後検討、提案ができる形になればいいかと思う。

・JFSTに関しては、知名度が足りないのが大きいと思うので、もし統合した場合には、イベントなどを開催し、PRしていければと思う。支部についても、交流や融合また、異分野交流を図る役割を果たすのに重要と思うので、あった方がいいと感じている。繊維関係が

縮小していつているのは明確で、このまま何もしなければ3学会とも一緒に縮小していくのは構造的に当たり前。研究する人も当然少なくなってくることを考えると、学会の立ち位置や新たな展開を考える時と感じる。

→新しいところにも投資できるような財務プランも必要かと思う。

・やはり財源と会員減少の問題が一番かと感じる。今回の合併の話ではやはり事務局をどうするかというのと、イベント運営のところを主な議論と理解している。仮に2事務局体制で合併した後に、その将来展望を明確にしてから進めないといけないという意見に同意する。将来展望について、若手にどういう学会にしたいかを聞くという意見もあったが、かなり年配でもこういった不確実な状況でどういった学会にしたいか、あるいはどういう学会にできるのかをなかなか明確に示せない。意見を聞くことは重要だが、明確に具体的な案が出てこなくてもしょうがないかなと思って意見を聞くぐらいのイメージでいいかというふうに個人的には思う。

・新学会を作るという意気込みで行きましょうとの話だったが、議決権行後、学会が承認されてからいつ発足するかというところのタイムスケジュールはかなり具体的なものを決めておいた方がいいのではないかと思う。特に、年次大会などは結構前から準備しており、学会誌も第一号を出す時期なども重要になる。会員減少もたくさん話題担っていたが、何かをやる度にそれを担当した人が消耗していくことがないように、そこをどうカバーできる体制を目指すか検討できればと思う。

・説明の中でもあった産官学連携の重要性を改めて考えた。アクションプランの情報発信にもあるように、繊維学会を知らない一般の人も含めて、疑問が生じたら繊維学会があるじゃないかと思ってもらえる魅力化をしていければと思う。また、ISF 2024 が非常に成功した裏には、若手会を中心に皆様方のご協力があったこそ。ぜひ次世代の若手をベースに交流し、ぎっくばらんに関後の学会像なども意見聴取されるといいのではないか。→ぜひ、学会を通じて時代を担う方々のネットワークが強化できるようにしたい。

・西部支部に所属するものとしては、支部の役割はとても大事なもの。東京から離れたところにいると、年次大会へ学生全員を連れて行くことはかなりの負担なので、そのような場合に支部が果たす役割は大きい。学生や若手の育成にとって、とても重要な場が学会の支部であり、繋がりであると認識している。区分けの調整はゼロベースだったとしても是非支部は継続してほしい。

・身の丈にあった事業内容に調整していくのは非常に大事なポイントであり、ぜひその方向で議論していければと思う。その上で、行事や事務局負担をある程度数値化し、工数など明確に示すとこの先いろいろ進めやすくなるのではないか。

・学会合併のそもそもの起点はおそらく未来を描いていきたい、学術の発展に寄与していきたい、ただ、人やお金の面で苦しいというところではないか。その上で、やはり財務面

についての議論は非常に重要になってくると考える。3学会ベクトルをきっちりと揃えた上で、こういう財務でいきましょうとピン留めした方がいいのでは。その上で、ワーストケースも議論し、どの事業をやるのかやらないのかの優先順位を、明確につけてしまっただろうか。それがないままでは、合併して進めていくことはできないと思う。

・3学会問題は、一度払拭をして未来につながる学会にしていきたいというところで、課題はいろいろあると思うけれども、指摘や懸念事項となっている部分はぜひ見直して、その上で、メリットを会員に伝えていくところが大事だと思う。事務局問題は然りで、今までの理事会でも公聴会でも多くの会員から質問が出ている。2拠点で行きますという形で話はされてきたが、メリットだけでなく、デメリットもあるはず。この辺をきちんと明示して、皆さんに理解いただけるような形に展開していただきたい。

・みなさんおっしゃるようにやはり財源の問題と人口減少の問題。企業内も予算があり、広告依頼を受けても各学会均一に出しにくい状況も増えてきている。会員への丁寧な説明は必ず必要と思うが、社内でも合併議論が長くなっていることにまだやっているのか？みたいな部分もある。やはり、早めに方向性を出していくことが必要と思っている。ぜひ、前向きなところで議論が進めばと思う。

・基本的には3学会合併に賛成しているが、先に決めること、合併してから決めることの整理がよりできていると、説明などでも脱線しにくい議論ができるのではないかなと思った次第。